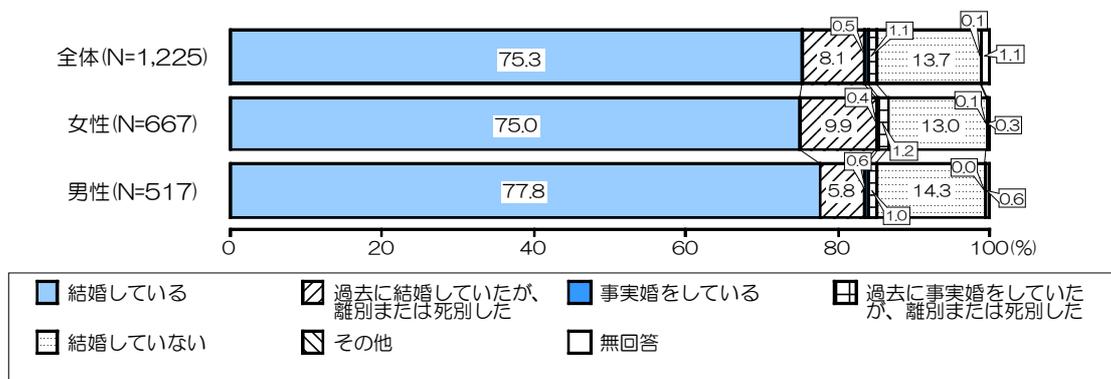


3 家庭生活について

3-1 結婚の状況

問8 あなたは結婚していますか。(1つだけに○印)

図3-1 結婚の状況



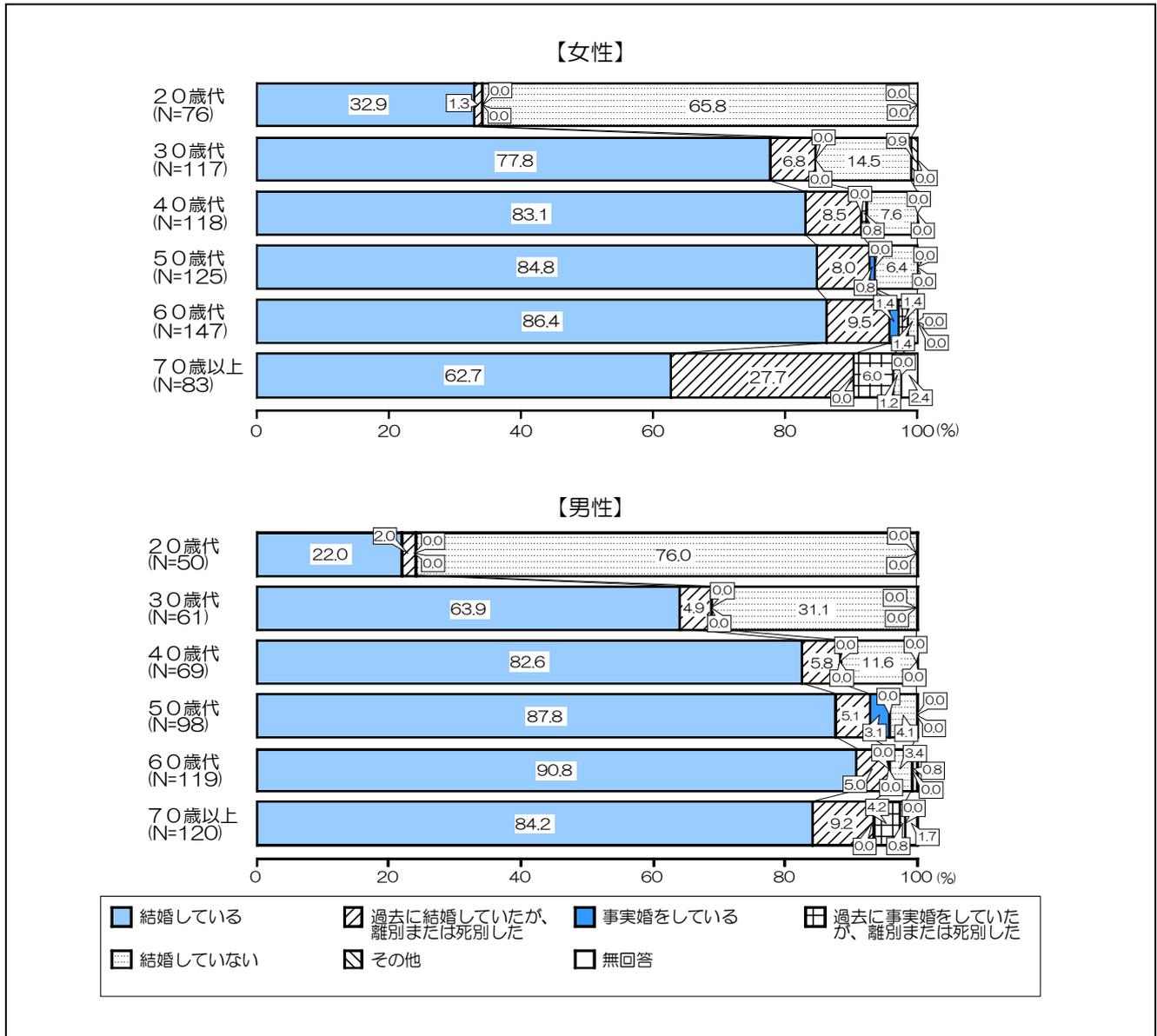
《ポイント》

- 結婚経験者は全体で8割強、現在「結婚している」人の割合は男性の方がやや高い。
- 「離別または死別した」という人の割合は女性の方が高い。

結婚の状況について、全体では、「結婚している」が75.3%で「結婚していない」を上回っている。性別にみると、「結婚している」は男性の方が若干高く、女性は「過去に結婚していたが、離別または死別した」が9.9%と男性を4.1ポイント上回っている。「結婚していない」は男性の方が若干高い。(図3-1)

※結婚経験者は「結婚している」、「過去に結婚していたが、離別または死別した」、「事実婚をしている」、「過去に事実婚をしていたが、離別または死別した」を合わせたもの

図3-1-1 性年齢別 結婚の状況



《ポイント》

- 40 歳代以下の年代では女性の方が「結婚している」割合は高いが、50 歳代以上の年代では男性の方が高い。
- 70 歳以上の女性の約3割は「離別または死別した」と回答している。

性年齢別にみると、20～40 歳代では男性よりも女性の方が「結婚している」の割合は高く、特に、20 歳代では 10.9 ポイントの男女差がある。70 歳以上では男性の方が「結婚している」の割合は高いが、「過去に結婚していたが、離別または死別した」は女性が 27.7%と男性を大きく上回っている。

(3-1-1)

3-2 結婚に対する負担感の有無・負担の内容

問9 あなたは、結婚に対して負担を感じますか。(結婚されている方は、結婚に対して負担を感じていますか。)(1つだけに○印)

問9-1 どのような負担を感じますか(感じていますか)。(あてはまるもの全てに○印)

図3-2 結婚に対する負担感の有無

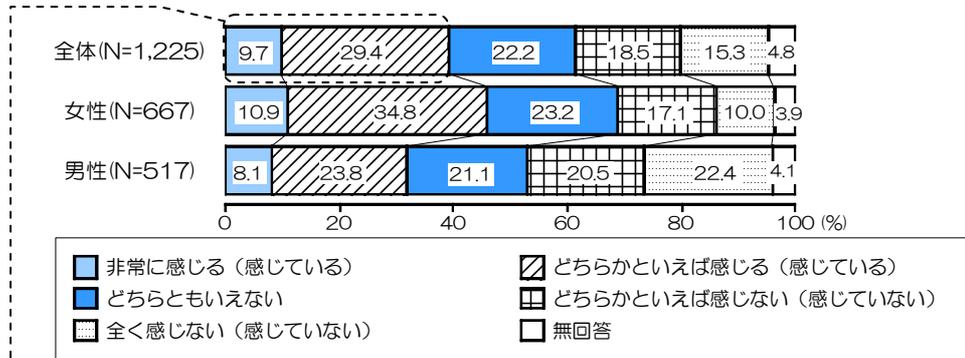
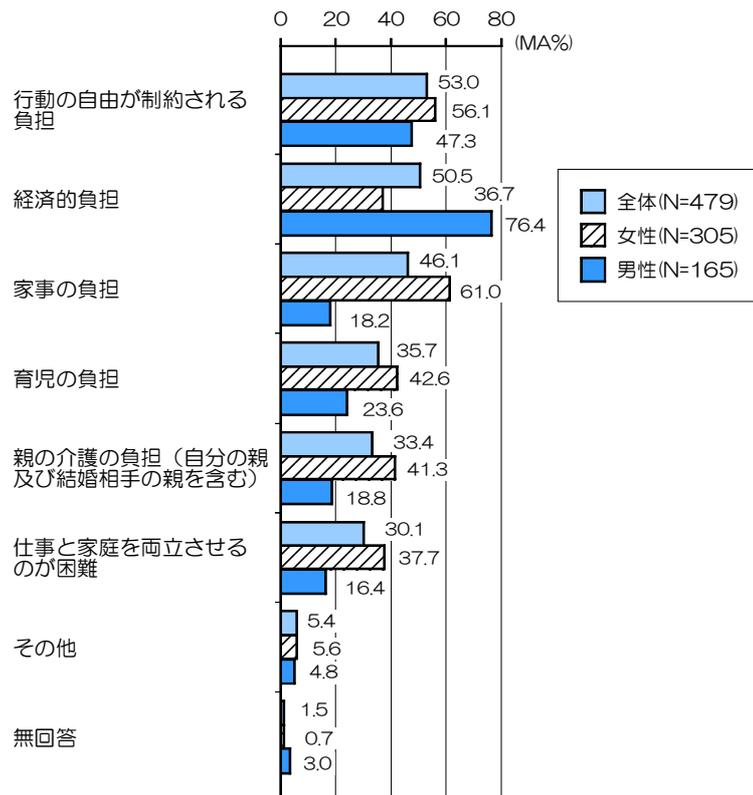


図3-2① 結婚に対する負担の内容



《ポイント》

○結婚に対して『負担を感じている』人は、全体では約4割で、女性の方が『負担を感じている』割合は高い。

○負担の内容では、女性は「家事の負担」とする人の割合が最も高く6割、男性は「経済的負担」が7割以上となっている。

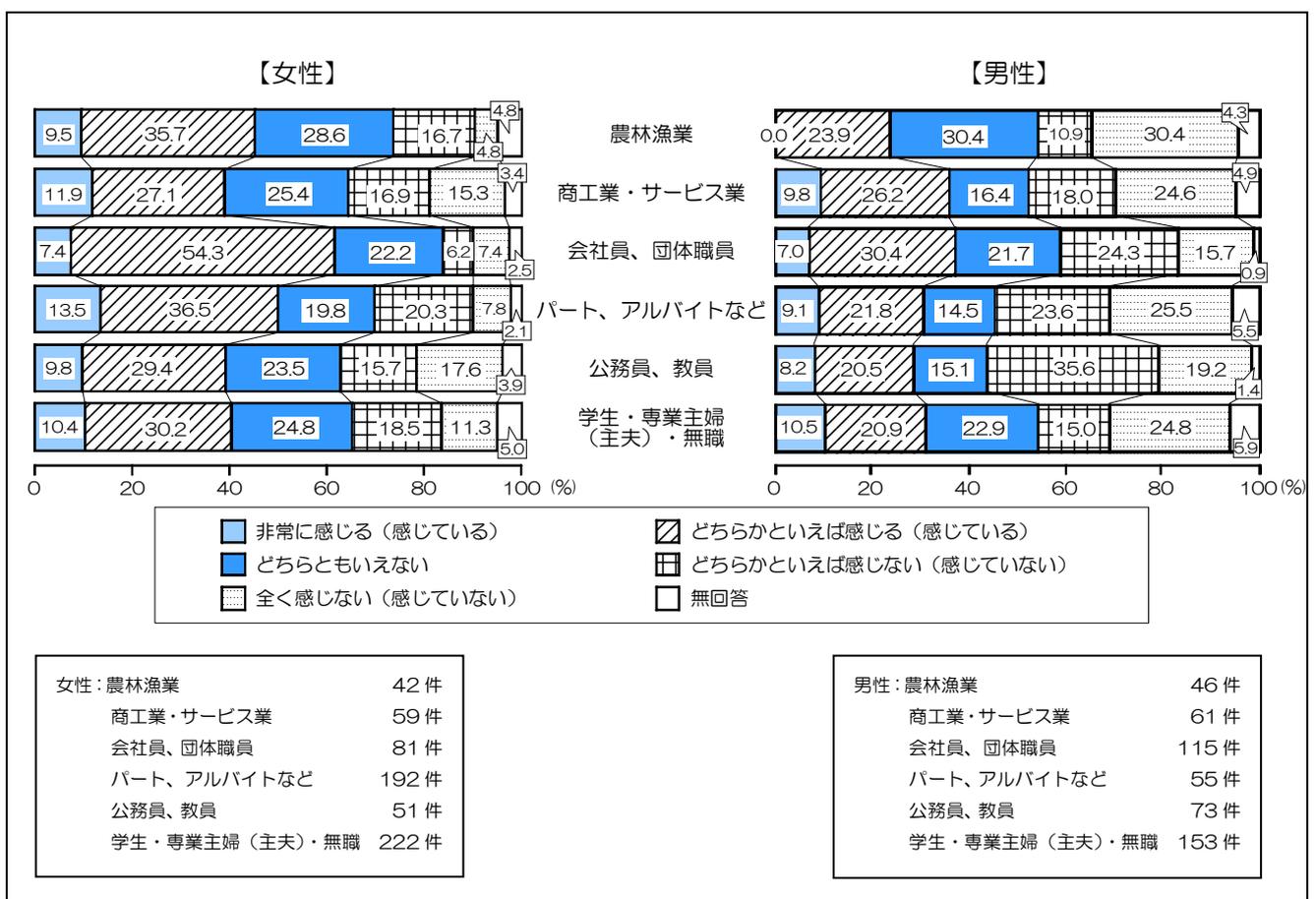
結婚に対する負担感の有無について、全体では『負担を感じる』（「非常に感じる（感じている）」と「どちらかといえば感じる（感じている）」を合わせたもの）は 39.1%で『負担を感じない』（「どちらかといえば感じない（感じていない）」と「全く感じない（感じていない）」を合わせたもの）の 33.8%を上回っている。

性別にみると、『負担を感じる』という人の割合は、女性が 45.7%で男性よりも 13.8ポイント高くなっている。「全く感じない（感じていない）」と回答した人の割合は、男性で 22.4%と高く、女性よりも 12.4ポイント高くなっている。（図 3-2）

結婚に対する負担の内容について、全体では「行動の自由が制約される負担」が最も高く 53.0%、次いで、「経済的負担」が 50.5%、「家事の負担」が 46.1%となっている。

性別にみると、男女差が大きいものとして、「経済的負担」では男性が 76.4%と高く、男女差が 39.7ポイント、「家事の負担」では女性が 61.0%と高く、男女差が 42.8ポイントとなっている。（図 3-2①）

図 3-2-1 職業別 結婚に対する負担感の有無



《ポイント》

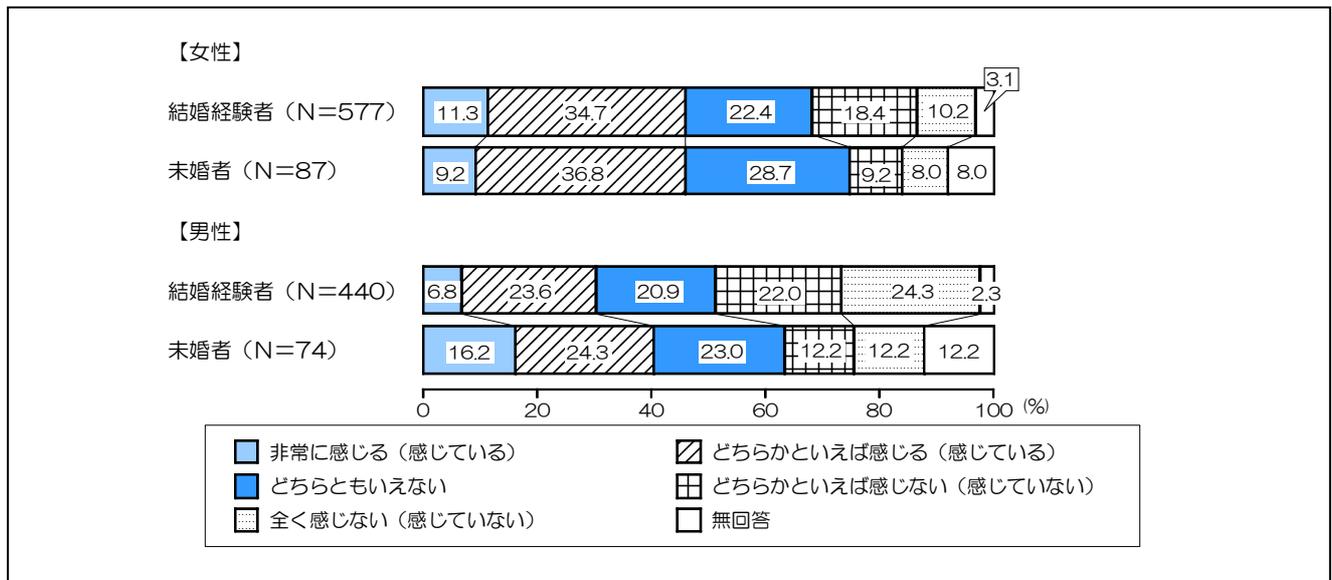
○結婚に対して『負担を感じている』人の割合は、男女とも「会社員、団体職員」で高く、女性は約 6割、男性は約 4割となっている。

○男性では、「農林漁業」で「全く負担を感じない」という人は約 3割となっている。

結婚に対する負担感の有無について、職業別にみると、女性では、『負担を感じる』は「会社員、団体職員」で最も高く 61.7%、次いで「パート、アルバイトなど」で 50.0%となっている。男性では、「会社員・団体職員」で 37.4%と最も高く、次いで、「商工業・サービス業」で 36.0%となっている。また、負担を「全く感じない」と回答した人の割合は、「農林漁業」の男性で 30.4%と最も高くなっている。

(図 3-2-1)

図 3-2-2 結婚の有無別 結婚に対する負担感の有無

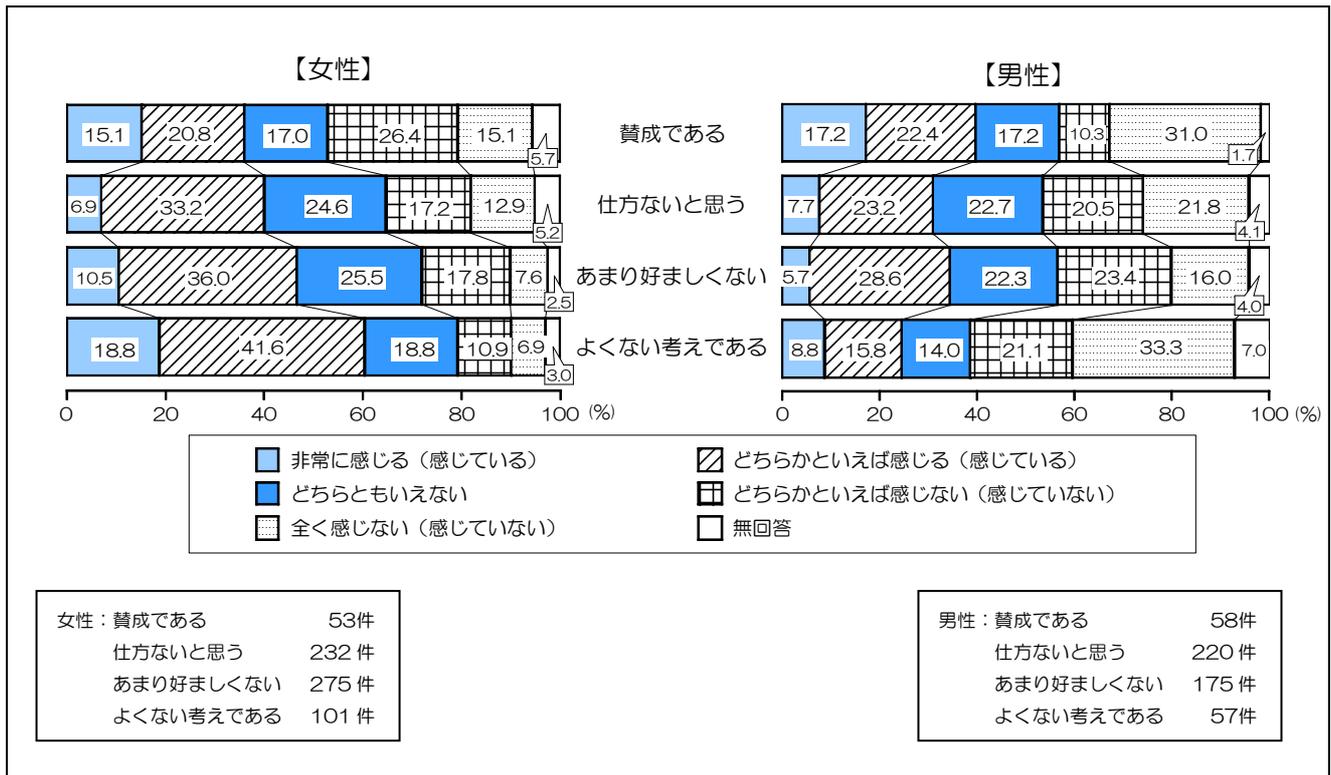


《ポイント》

- 女性の負担感は、結婚の有無に差はないが、『負担を感じない』人の割合は結婚経験者の方が高い。
- 男性の負担感は、未婚者で高く、『負担を感じない』人の割合は結婚経験者で高い。

結婚に対する負担感の有無について、結婚の有無別にみると、女性では、『負担を感じる』という人の割合は結婚経験者、未婚者ともに差はないが、『負担を感じない』という人の割合は結婚経験者の方が 11.4 ポイント高くなっている。男性では、『負担を感じる』という人の割合は未婚者の方が 10.1 ポイント高く、『負担を感じない』という人の割合は結婚経験者の方が 21.9 ポイント高くなっている。(図 3-2-2)

図3-2-3 固定的役割分担意識別 結婚に対する負担感の有無

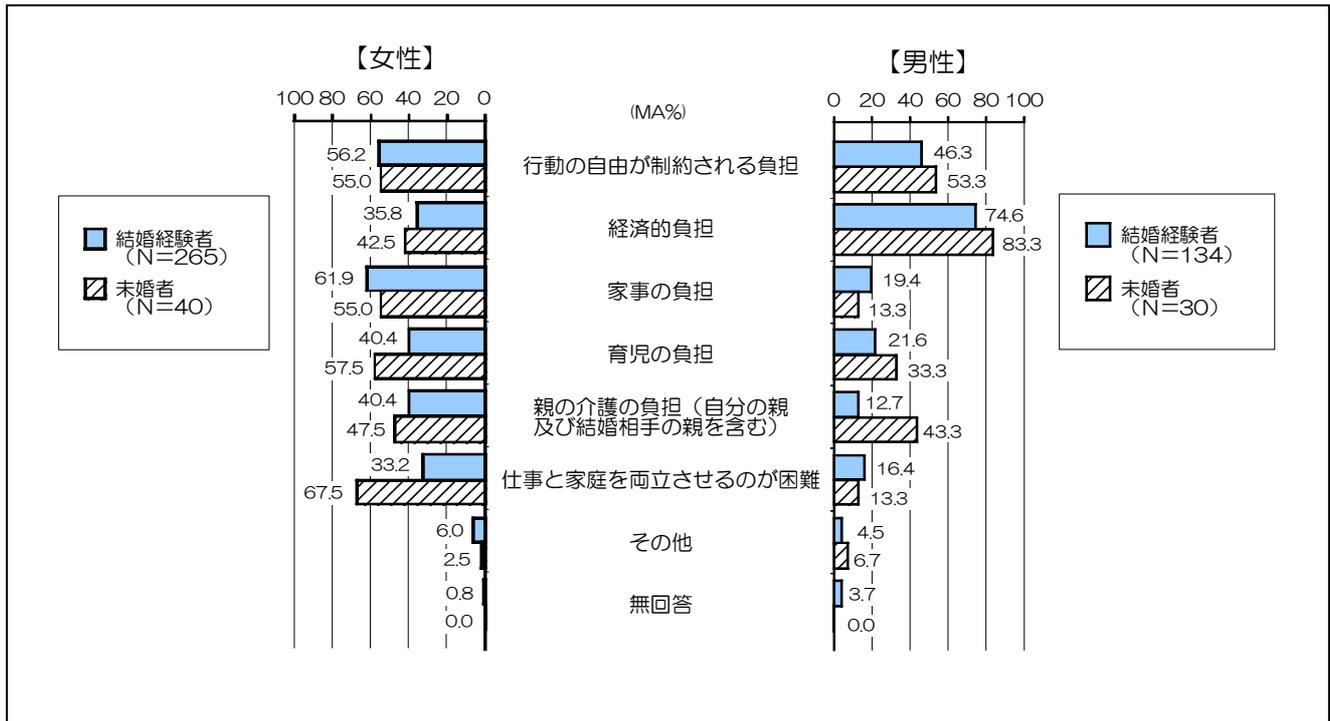


《ポイント》

- 女性は、固定的な役割分担に否定的な人ほど結婚に負担を感じている。
- 男性は、固定的な役割分担に否定的な人ほど結婚に対し、負担を感じていない。

結婚に対する負担感の有無について、男女の固定的役割分担意識別にみると、女性では、役割分担に否定的な人ほど、『負担を感じる』という人の割合は高くなっている。男性では、役割分担について否定的な人ほど、『負担を感じる』という人の割合は低く、「よくない考えである」という人の半数以上が、『負担を感じない』と回答している。また、「賛成である」という人の17.2%が、負担を「非常に感じる」と回答している。(図3-2-3)

図3-2①-1 結婚の有無別 結婚に対する負担の内容

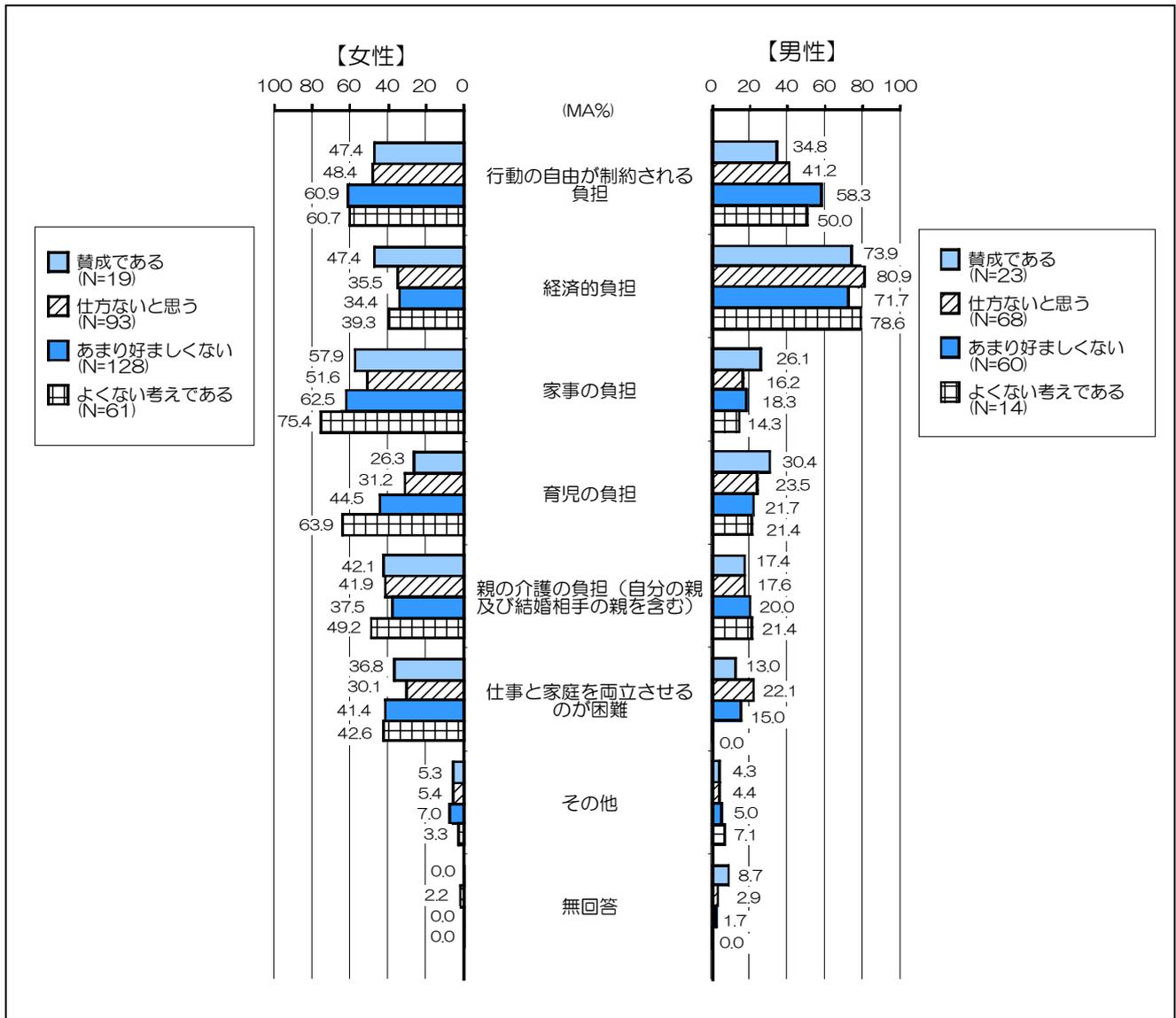


《ポイント》

- 女性の未婚者は、「仕事と家庭の両立」や「育児」についての負担を感じる人が多く、結婚経験者は「家事」に負担を感じている人が多い。
- 男性は、未婚者、結婚経験者ともに「経済的負担」と答えた人が最も多く、未婚者では「親の介護」に負担を感じている人も多い。

結婚に対する負担の内容について、結婚の有無別にみると、女性では、結婚経験者は「家事の負担」で未婚者よりも6.9ポイント高くなっている。未婚者は「仕事と家庭を両立させるのが困難」で34.3ポイント、結婚経験者よりも高く、その他ほとんどの項目で未婚者の方が割合は高くなっている。男性では、結婚経験者は「家事の負担」で6.1ポイント、「仕事と家庭を両立させるのが困難」で3.1ポイント未婚者よりも高くなっている。未婚者は「親の介護の負担（自分の親及び結婚相手の親を含む）」で30.6ポイント上回っているのをはじめ、ほとんどの項目で結婚経験者を上回っている。(図3-2①-1)

図3-2①-2 固定的役割分担意識別 結婚に対する負担の内容

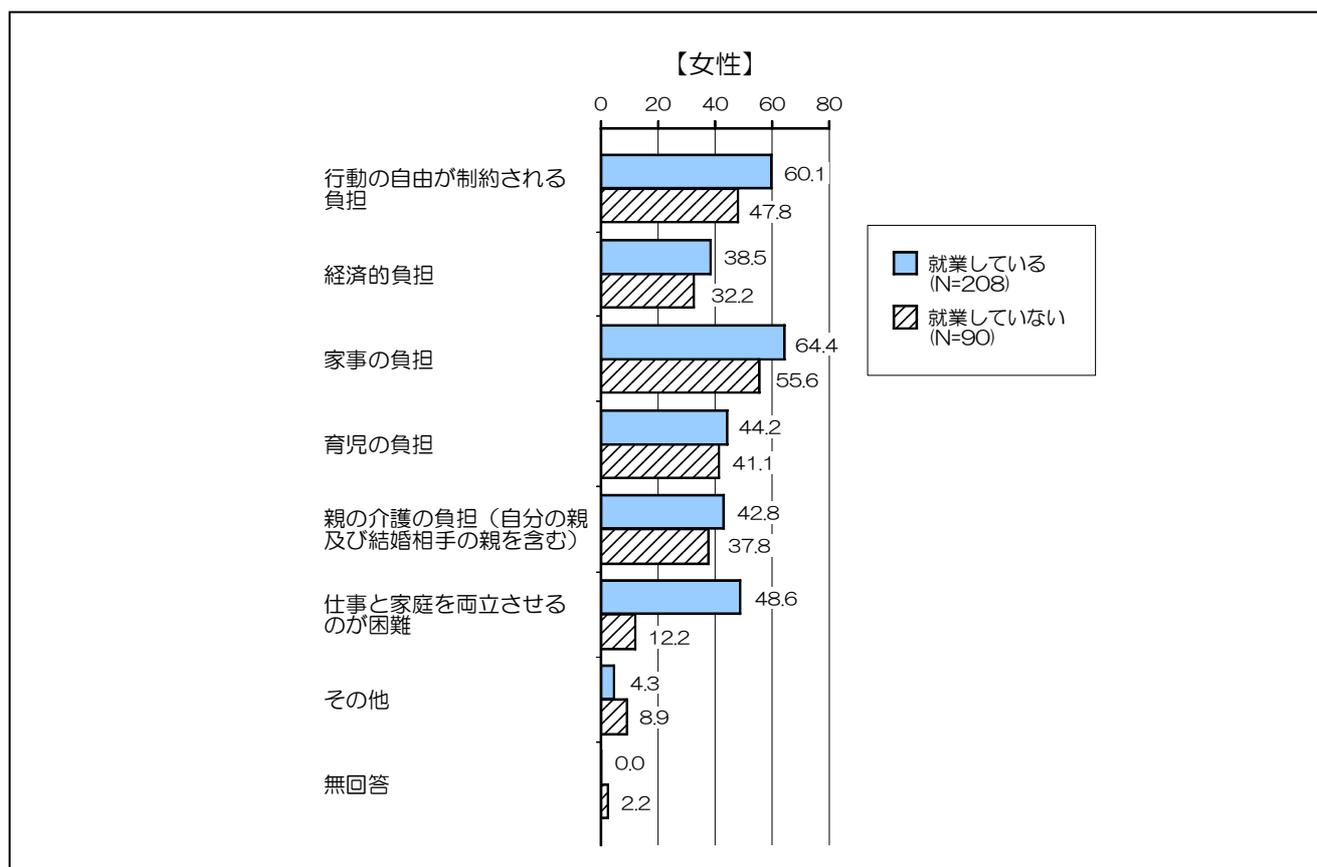


《ポイント》

- 女性では、固定的な役割分担に否定的な人ほど、「行動の制約」、「家事」、「育児」で負担を感じる傾向が強い。
- 男性では、「行動の制約」では、固定的な役割分担に否定的な人ほど負担を感じる傾向が強いが、「家事」、「育児」では否定的な人ほど負担に感じない傾向にある。

結婚に対する負担の内容について、固定的役割分担意識別にみると、女性では、「行動の自由が制約される負担」、「家事の負担」、「育児の負担」で固定的な役割分担に否定的な人ほど割合は高く、特に、「家事の負担」では「よくない考えである」という人は75.4%となっている。男性では、固定的な役割分担に否定的な人は「行動の自由が制約される負担」で割合は高いが、「家事の負担」、「育児の負担」では否定的な人ほど割合は低くなっている。(図3-2①-2)

図3-2①-3 就業の有無別 結婚に対する負担の内容（女性のみ）



《ポイント》

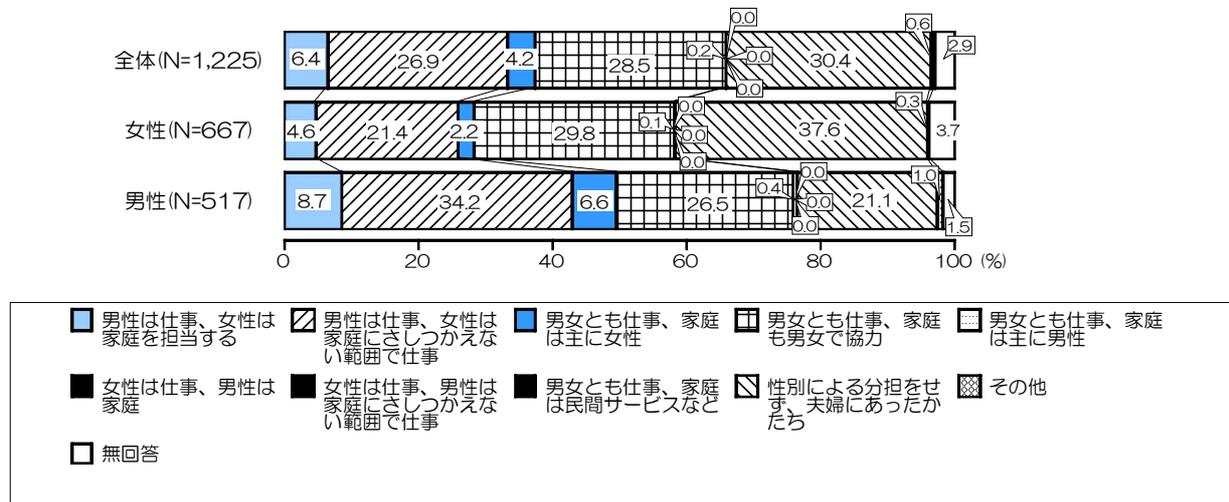
- ほとんどの項目で就業している女性は、結婚に対してより負担を感じている。
- 就業している女性の6割以上が「家事」、「行動の制約」に負担を感じている。

結婚に対する負担の内容について、女性のみ就業の有無別にみると、「その他」以外の項目で就業している人の方が割合は高く、「仕事と家庭を両立させるのが困難」で36.4ポイントと差が最も大きく、「行動の自由が制約される負担」で12.3ポイント、「家事の負担」で8.8ポイントと差が大きくなっている。
 (図3-2①-3)

3-3 仕事と家庭に関する本来あるべき男女の役割分担

問10 仕事と家庭に関する男女（夫婦、パートナー）の役割分担について、本来どのようにあるべきだと思いますか。（1つだけに○印）

図3-3 仕事と家庭に関する本来あるべき男女の役割分担



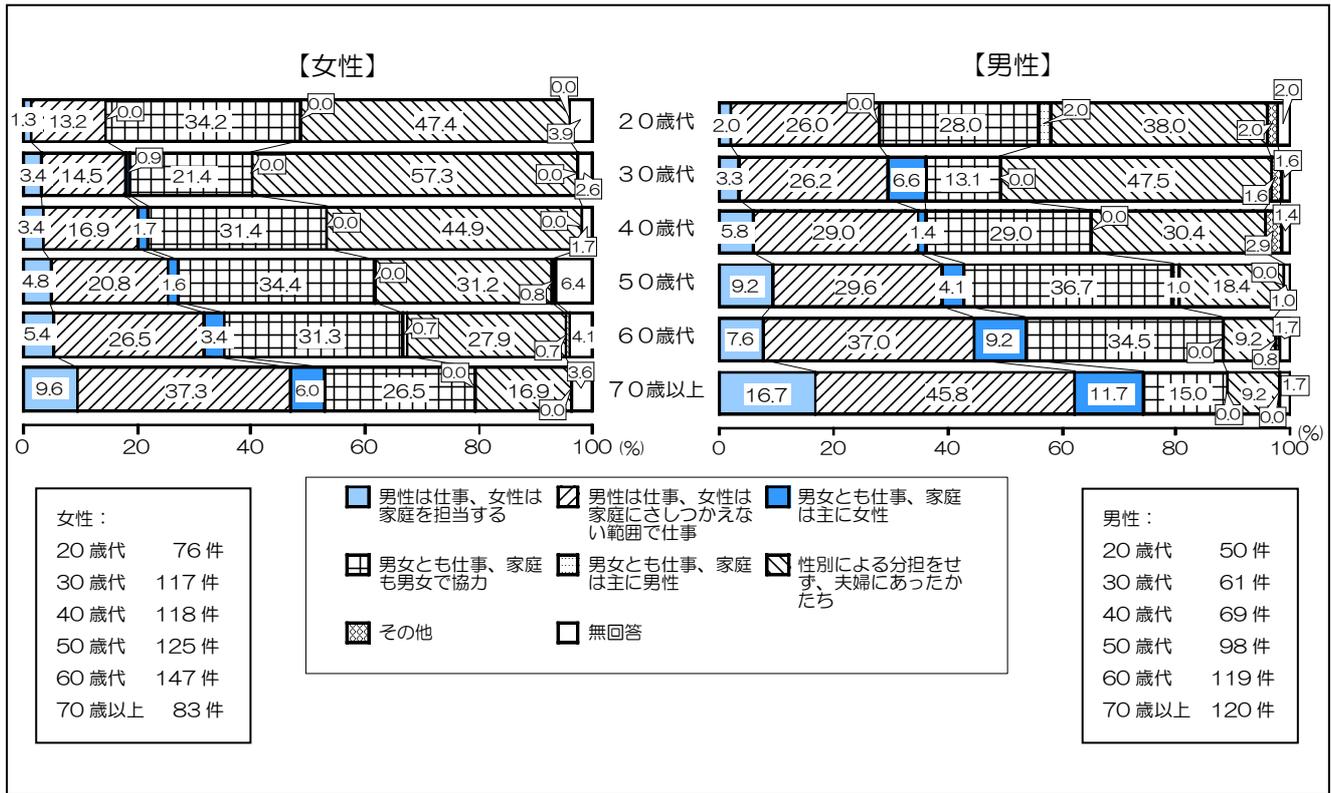
《ポイント》

- 女性は、「夫婦にあったかたち」（37.6%）の役割分担を望み、男性は「男性は仕事、女性は家庭にさしつかえない範囲で仕事をする」（34.2%）が『あるべき役割分担』と考えている。
- 「男女とも仕事、家庭も男女で協力」と答えた人の割合は女性の方が高い。

仕事と家庭に関する本来あるべき男女の役割分担について、全体では「性別による役割分担をせずに、夫婦にあったかたちで行う」が30.4%と最も高く、次いで、「男女とも仕事をし、家庭も男女で協力して行う」が28.5%、「男性は仕事、女性は家庭にさしつかえない範囲で仕事をする」が26.9%となっている。「男性は仕事、女性は家庭を担当する」は6.4%にとどまっている。

性別にみると、「性別による役割分担をせずに、夫婦にあったかたちで行う」は女性の方が16.5ポイント高く、「男性は仕事、女性は家庭にさしつかえない範囲で仕事をする」では男性が女性よりも12.8ポイント高くなっている。「男性は仕事、女性は家庭を担当する」は男性の方が4.1ポイント高い。（図3-3）

図3-3-1 性年齢別 仕事と家庭に関する本来あるべき男女の役割分担

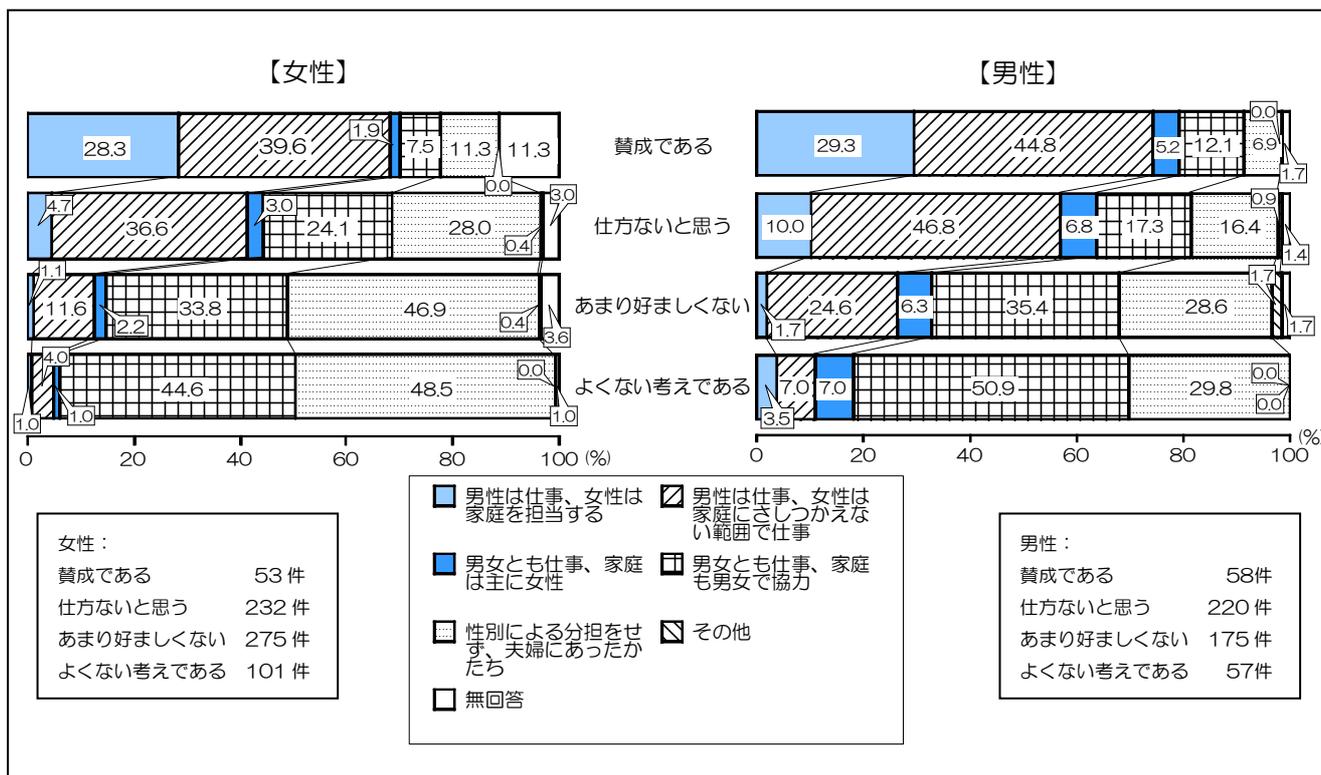


《ポイント》

○女性が『家庭を担当すべき』という意見の項目は、男女とも高年齢層になるほど割合は高く、「家庭も男女で協力」、「夫婦にあったかたち」などの意見は若年層で高い。

性年齢別にみると、女性では、「男性は仕事、女性は家庭を担当する」、「男性は仕事、女性は家庭にさしつかえない範囲で仕事をする」、「男女とも仕事をし、家庭は主に女性が担当する」などの女性が家庭を担当する項目は、年齢層が上がるほど、割合は高くなっている。「男女とも仕事をし、家庭も男女で協力して行う」は、ほとんどの年代で3割以上であるが、30歳代、70歳以上では2割台と低い。「性別による役割分担をせずに、夫婦にあったかたちで行う」は30歳代で57.3%と最も高く、年代が上がるほど割合は低くなっている。男性では、年齢層が上がるほど女性が家庭を担当する項目の割合は高くなり、70歳以上では7割以上の方が家庭は女性が担当するべきだと考えている。男女とも30歳代で、他の年代と比べ、「男女とも仕事をし、家庭も男女で協力して行う」の割合は低く、「性別による役割分担をせずに、夫婦にあったかたちで行う」が高くなっている。(図3-3-1)

図3-3-2 固定的役割分担意識別 仕事と家庭に関する本来あるべき男女の役割分担



《ポイント》

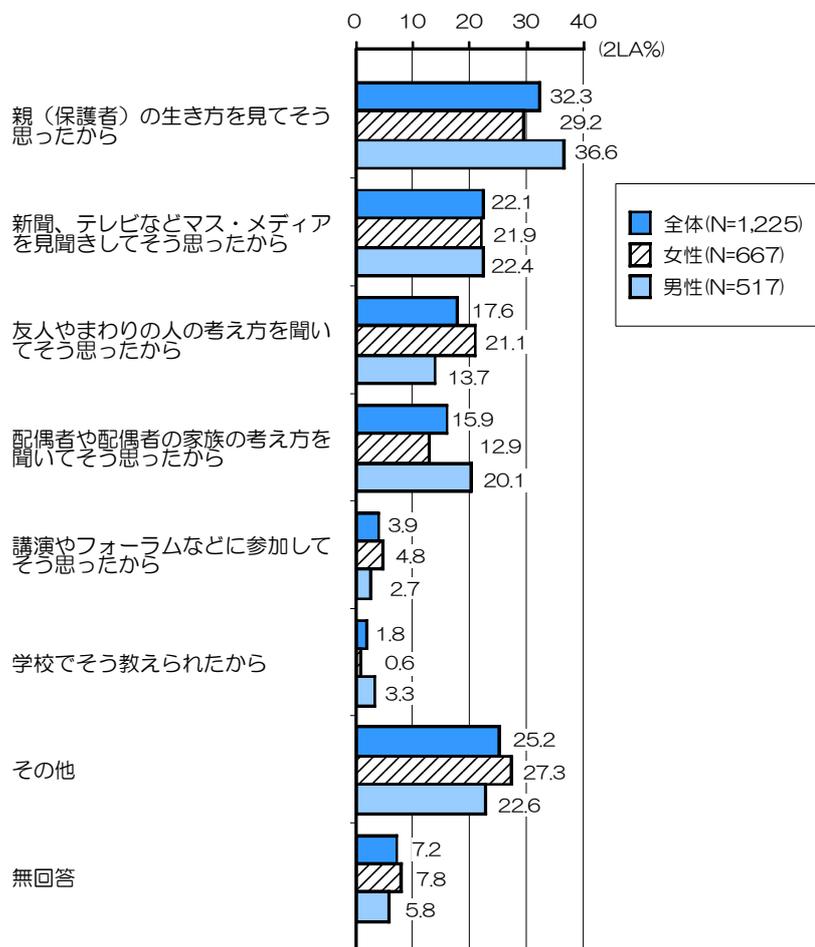
○『女性が家庭を担当すべき』という意見の項目は、男女とも固定的役割分担に肯定的な人ほど多く、否定的な人ほど「家庭も男女で協力」、「夫婦にあったかたち」という人が多い。

固定的役割分担意識別にみると、女性では、「固定的役割分担に賛成である」という人の割合は「男性は仕事、女性は家庭を担当する」が28.3%、「よくない考えである」という人の1.0%を大きく上回っている。逆に、「男女とも仕事をし、家庭も男女で協力して行う」は、役割分担に「賛成である」という人は7.5%にとどまり、「よくない考えである」という人では44.6%と大きく上回っている。男性でも女性と同様に、固定的役割分担に「賛成である」という人の割合は「男性は仕事、女性は家庭を担当する」が29.3%で、「よくない考えである」という人の3.5%を大きく上回っている。逆に、「男女とも仕事、家庭も男女で協力」は、役割分担に「賛成である」という人は12.1%、「よくない考えである」という人では50.9%と大きく上回っている。(図3-3-2)

3-4 あるべき男女の役割分担について、そう考える理由

問11 仕事と家庭に関する男女（夫婦、パートナー）の役割分担について、あなたが、問10のように考えるのはなぜですか。（2つまでに○印）

図3-4 あるべき男女の役割分担について、そう考える理由



《ポイント》

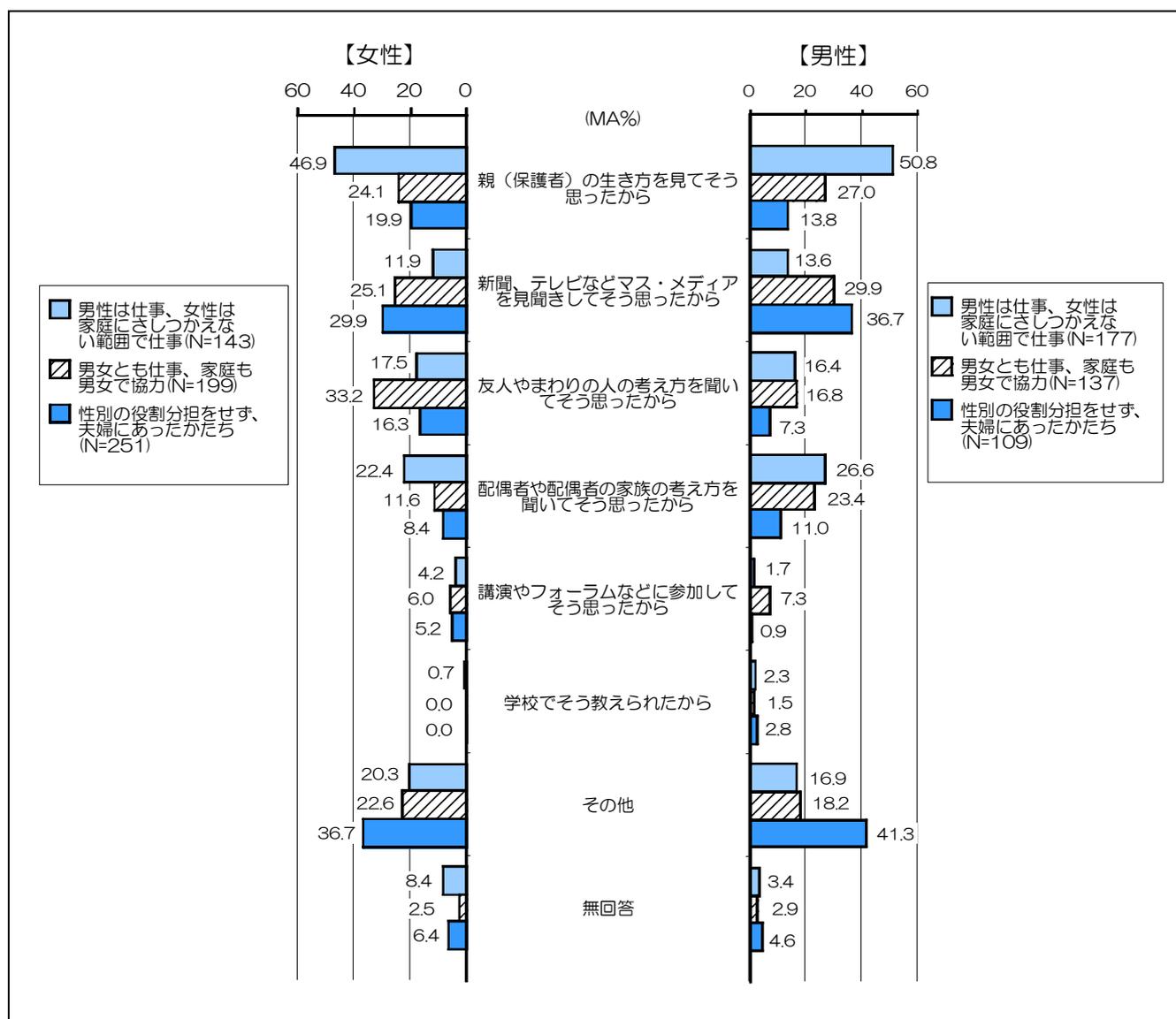
○男女とも「親（保護者）の生き方を見てそう思ったから」という意見が最も多く、男性の方が割合は高い。

○女性は「友人やまわりの人の考え方を聞いてそう思ったから」が男性よりも高い。

あるべき男女の役割分担について、そう考える理由について、全体では、「親（保護者）の生き方を見てそう思ったから」で32.3%、次いで、「新聞、テレビなどマス・メディアを見聞きしてそう思ったから」が22.1%、「友人やまわりの人の考え方を聞いてそう思ったから」が17.6%となっている。

性別にみると、「友人やまわりの人の考え方を聞いてそう思ったから」では女性の方が7.4ポイント高くなっている。「親（保護者）の生き方を見てそう思ったから」、「配偶者や配偶者の家族の考え方を聞いてそう思ったから」では男性の方が割合は高くなっている。（図3-4）

図3-4-1 あるべき男女の役割分担別
あるべき男女の役割分担について、そう考える理由



《ポイント》

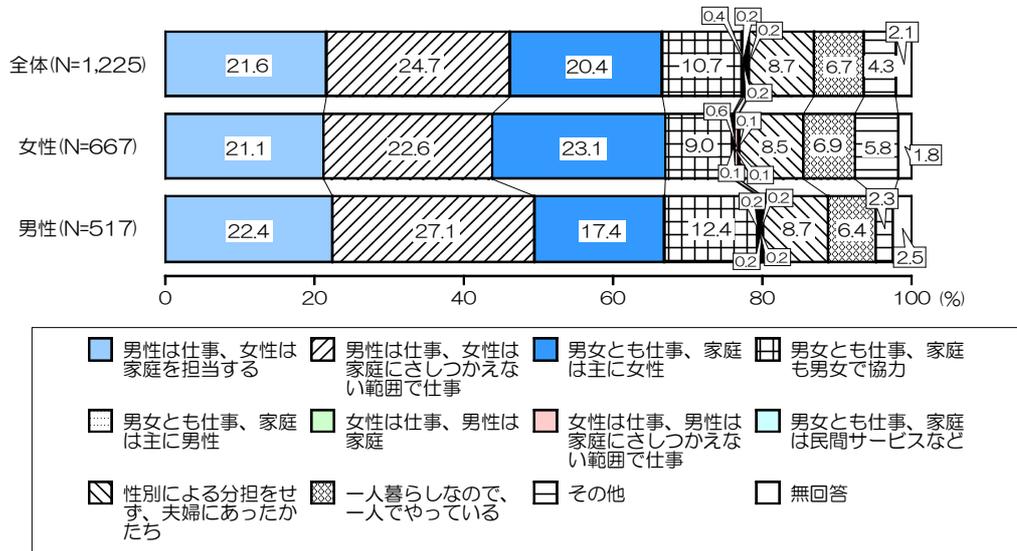
- 男女の役割分担について「男性は仕事、女性は家庭にさしつかえない範囲で仕事」という人は、「親や、配偶者の家族の影響」という意見が多い。
- 「性別の役割分担をせず、夫婦にあったかたち」という人は、「新聞、テレビなどマス・メディアからの影響」という傾向が強い。

あるべき男女の役割分担について、そう考える理由をあるべき男女の役割分担別に主な3つの意見についてみると、「親（保護者）の生き方を見てそう思ったから」、「配偶者や配偶者の家族の考え方を聞いてそう思ったから」では「男性は仕事、女性は家庭にさしつかえない範囲で仕事」という人の割合が男女とも最も高くなっている。「新聞、テレビなどマス・メディアを見聞きしてそう思ったから」は、「性別の役割分担をせず、夫婦にあったかたち」という人が男女とも最も高く、男性の方が割合は若干高くなっている。「男女とも仕事、家庭も男女で協力」という人の割合は、女性では「友人やまわりの人の考え方を聞いてそう思ったから」で最も高く、33.2%となっている。（図3-4-1）

3-5 実際の家庭での役割分担

問12 では、実際に、あなたのご家庭での仕事と家庭に関する男女（夫婦、パートナー）の役割分担に近いものはどれですか。（1つだけに○印）

図3-5 実際の家庭での役割分担



《ポイント》

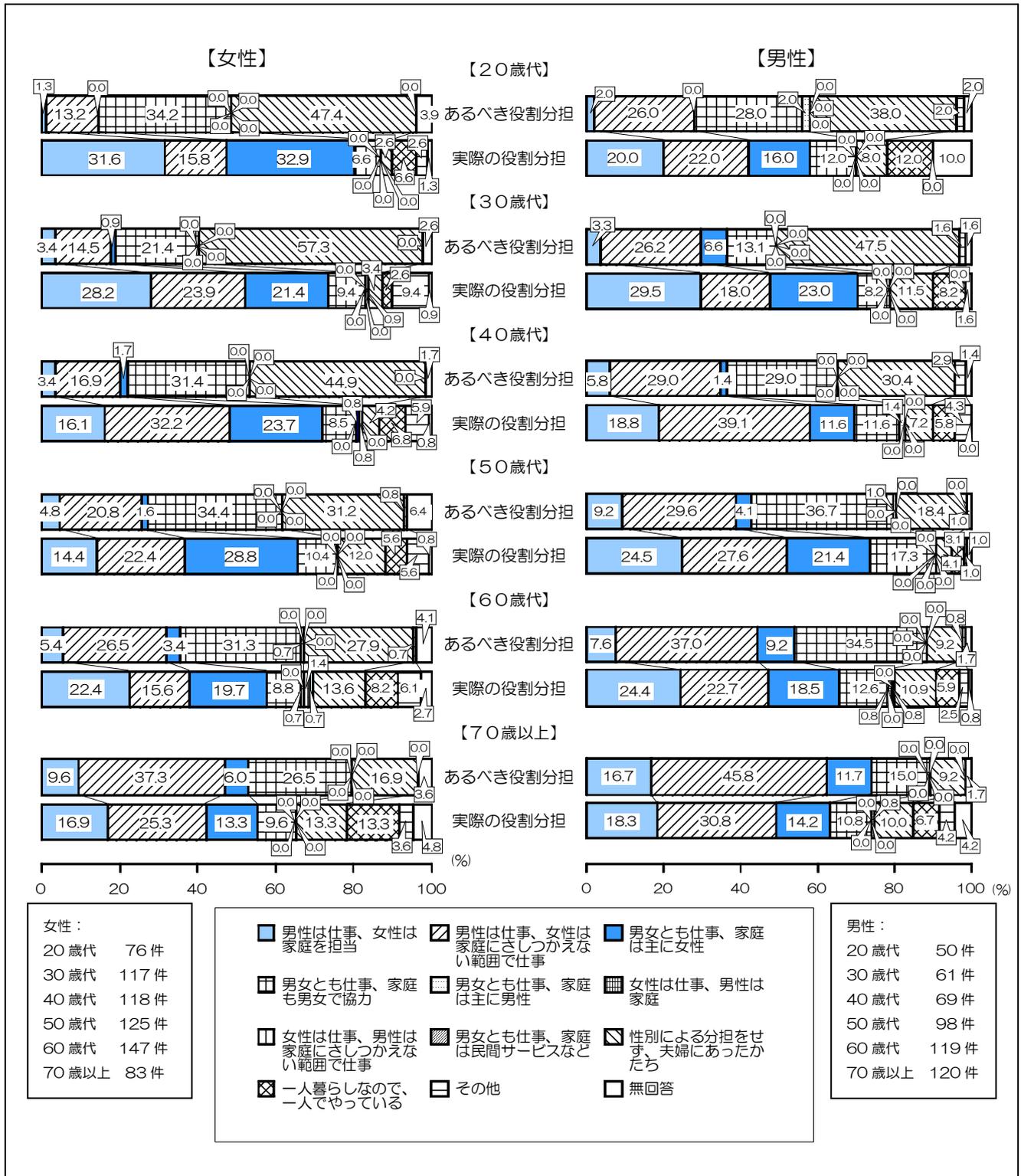
○「女性は家庭にさしつかえない範囲で仕事」と答えた人の割合は男性の方が高く、「男女とも仕事、家庭は主に女性」は女性の方が割合は高いことから、実際に家庭を担当する比重において男女間の認識の違いがあらわれている。

実際の家庭での役割分担について、全体では、「男性は仕事、女性は家庭にさしつかえない範囲で仕事をしている」が24.7%で最も高く、次いで、「男性は仕事、女性は家庭を担当している」が21.6%、「男女とも仕事をし、家庭は主に女性が担当している」が20.4%で女性が家事を担当しているという人は、6割以上となっている。

性別にみると、「男性は仕事、女性は家庭にさしつかえない範囲で仕事をしている」は男性の方が4.5ポイント高く、「男女とも仕事をし、家庭は主に女性が担当している」では女性の方が5.7ポイント高くなっており、女性の方がより強く、女性が家庭を担当していると考えている傾向がうかがえる。

(図3-5)

図3-5-1 性年齢別 「あるべき男女の役割分担」と「実際の家庭での役割分担」



《ポイント》

- 「男性は仕事、女性は家庭」、「女性は家庭にさしつかえない範囲で仕事」、「男女とも仕事、家庭は主に女性」という人の割合は、男女とも実際の役割分担の方が高く、その傾向は若年層、特に女性でより強くあらわれている。
- あるべき役割分担では、「仕事も家庭も男女で平等」に、または「夫婦にあったかたち」が望まれている。

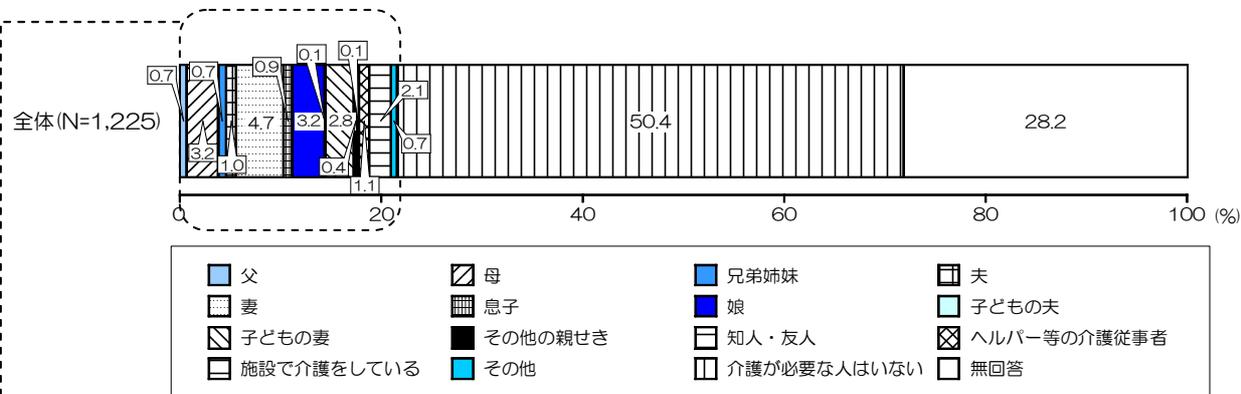
「あるべき男女の役割分担」と「実際の家庭での役割分担」を対比してみると、女性では、「性別による分担をせず、夫婦にあったかたち」は20～40歳代で差が大きく、あるべき役割分担では4～5割以上と高いのに対し、実際の役割分担では1割にも満たない。しかし、50歳代以上になると、その差は小さくなっている。また、これとは逆に、「男性は仕事、女性は家庭を担当」、「男女とも仕事、家庭は主に女性」は男女とも、どの年代でも実際の役割分担の方が高く、その差は若年層ほど大きくなっている。

(図3-5-1)

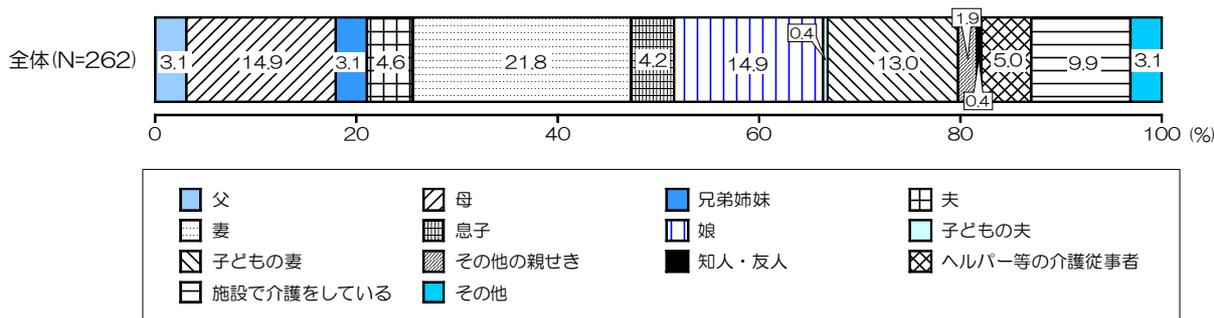
3-6 家庭での介護の担い手

問13 現在、あなたの家庭に介護の必要な方がおられる場合、その方の介護は主にどなたがしていますか。※介護が必要な方からみた続柄をお答えください。(1つだけに○印)

図3-6 家庭での介護の担い手



家庭での介護の担い手（「介護が必要な人はいない」と無回答を除いたもの）



《ポイント》

- 『家庭で介護の必要な人がいる』と回答した人は、全体で2割ほどとなっている。
- 「妻」、「母」、「娘」、「子どもの妻」が多く、いずれも女性が介護を担っていることがうかがえる。

家庭での介護の担い手について、「介護が必要な人はいない」が50.4%と半数を占め、実質、介護が必要な人がいないために回答しなかったと考えられる無回答が28.2%となっている。実際に介護の担い手を回答した人の262人を見ると、全体では「妻」が21.8%と最も高く、次いで、「母」、「娘」が14.9%、「子どもの妻」が13.0%といずれも1割を超えているのは全て女性となっている。(図3-6)